

1. 瘧 見

別 紙

サンルダム建設について

天塩川流域に住む一住民としての発言である。

天塩川流域の開拓の歴史は、天塩川即ち水との戦いであり、明治30年代以降に記録された大水害は、今日まで8回の多くを数え、多くの人命(9名)も失って居る。

この事は、今日までの天塩川流域の住民が、生きて行くために洪水との格闘の歴史で有った事を物語って居る。

これは名寄市に住む私たちだけの問題では無く、源流を抱える朝日町、下川町から、下流域では河口に位置する天塩町に至る迄9ヶ市町村の住民全てが考え、対応すべき問題で有る。

その洪水も昭和30年代以降は、順次少なくなって来ておるが、これは、30年代初頭から行われてきた水害防止の為の河川改修、そして多目的岩尾内ダムの建設などの結果で有る。

ダム建設に反対する人々の大半は、この流域に住んで居る人々では無く、遠くサッポロなどの都会に住み、水害の苦しさを知らず、机上の学問のみの知識で持って反対をし、そして時の政府の政策には、何事にも全て反対する人々のように、私には思えてならないが、これは私の偏見か!

特に最近では世界の各地で異常気象が続発して居り、アフリカでも異常干ばつで多くの動物が命を失い、かと思うとインドネシアのジャワ島では、とんでもない大雨が降るなど過去の気象記録、現象が、参考に成らない様相を呈して来ている昨今である。

天塩川でもいつ何時、この様に想像を絶する想定外の災害に見舞われる可能性は大で有る。

サンルダム建設については、ダム建設予定が発表されて以来、地元の太公望達は反対している。私が思うことは釣りは我々の趣味、遊びであり、ダム建設は地域住民の生命財産を護るものであり、考える次元が違い一緒にすべきものではない、自然保護、生態系の維持保護は、大切な地球規模的な問題であり、魚道の建設に当たっては、自然保護、釣り人の思いにも配慮して、魚の習性を良く取り入れて、120%機能する魚道を作るべきと思う。

今、問題になっている知床半島の砂防ダムと、水害防止等を目的とするサンルダムを一緒にすべきではない!